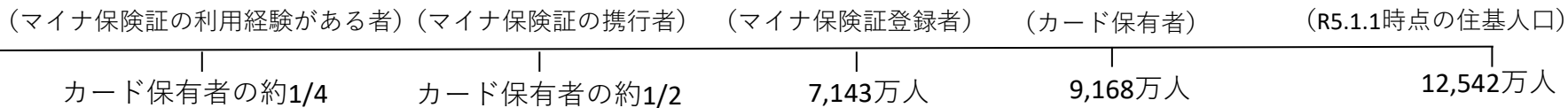


マイナ保険証の利用等に関する現状

資料 4



① マイナンバーカードの保有状況

取得

マイナンバーカードの保有者 (9,168万人,全人口の73.1% 令和6年1月末時点)



登録

② マイナ保険証の登録状況

マイナ保険証の登録者
(7,143万人,カード保有者の77.9% 令和6年1月28日時点)



携行

③ マイナンバーカードの携行状況

マイナンバーカードの携行者
(人口全体の4割,カード保有者の5割 (令和5年11~12月))



利用

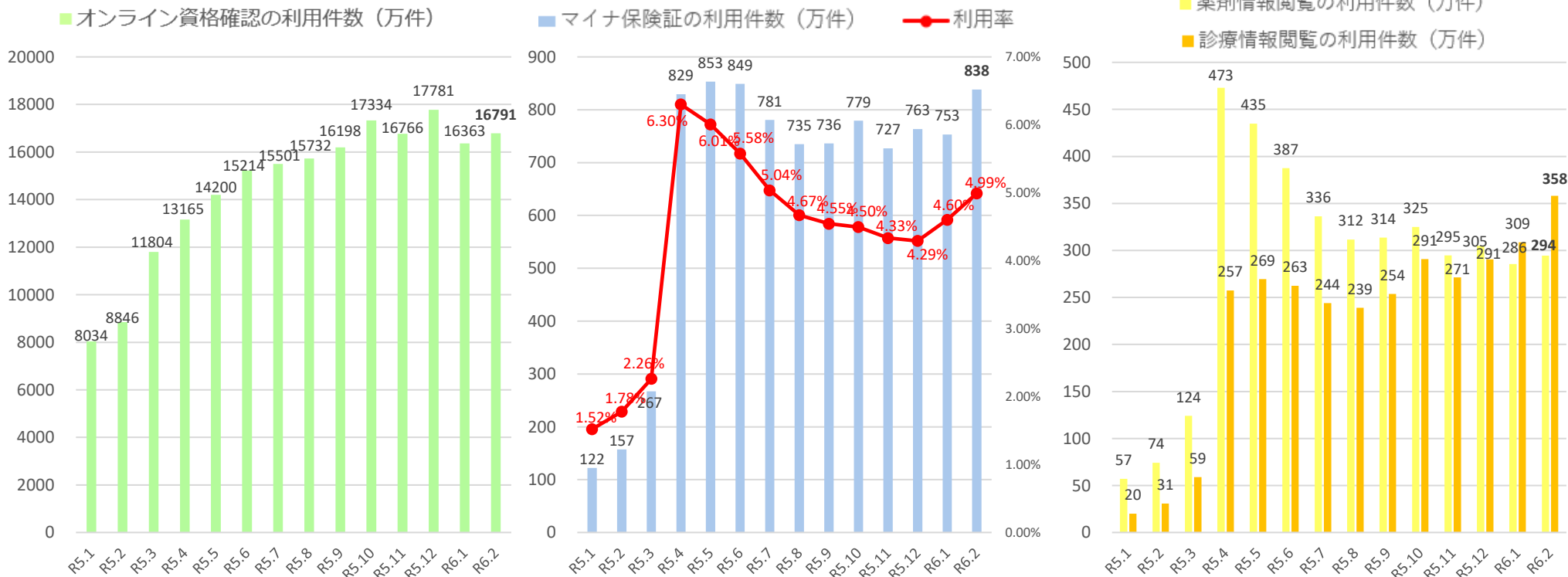
④ マイナ保険証の利用状況

マイナ保険証の利用経験 (令和6年2月調査)
(約4人に1人が利用経験あり)

マイナ保険証の令和6年2月利用実績
(838万件,4.99%)

オンライン資格確認の利用状況

※利用率=マイナ保険証利用件数/オンライン資格確認利用件数



【2月分実績の内訳】

※紙の保険証受診であってオンライン資格確認を利用しない場合も含めた資格確認総件数は、直近で約2.46億件（令和5年6月）

	合計	マイナンバーカード	保険証	特定健診等情報 (件)	薬剤情報 (件)	診療情報 (件)
病院	8,739,846	1,009,166	7,730,680	265,096	218,450	367,748
医科診療所	72,113,389	3,649,066	68,464,323	1,040,587	1,786,998	1,977,169
歯科診療所	11,291,880	1,135,620	10,156,260	178,062	225,054	107,216
薬局	75,760,791	2,590,763	73,170,028	856,629	713,786	1,129,798
総計	167,905,906	8,384,615	159,521,291	2,340,374	2,944,288	3,581,931

マイナ保険証の利用状況（国共済組合の利用状況）

11月利用実績

※ 登録率（加入者におけるマイナンバーカードを健康保険証として登録している割合）＝保険証登録者数／加入者数

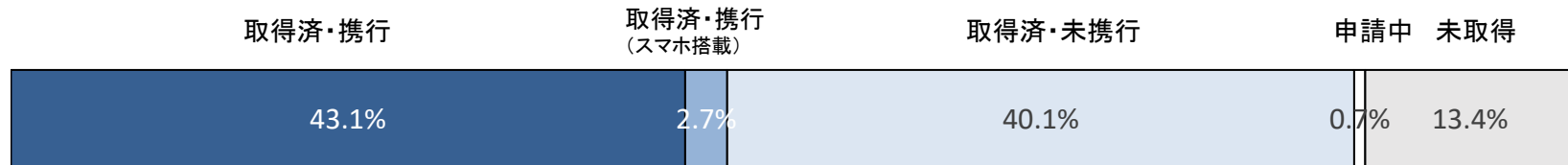
※ マイナ利用割合（オンライン資格確認を利用した件数のうち、マイナ保険証を利用している割合）＝マイナ利用件数／オン資利用件数（オンライン資格確認の利用件数）

	加入者数	登録者数	登録率	マイナ利用件数	オン資利用件数	マイナ利用率
内閣府共済組合	32135	19677	61.2%	2079	40622	5.12%
（内閣共済組合人事院支部）	1109	669	60.3%	76	1265	6.01%
（内閣共済組合内閣府本府支部）	11703	7578	64.8%	847	15101	5.61%
（内閣共済組合宮内庁支部）	2195	1277	58.2%	94	2570	3.66%
（内閣共済組合公正取引委員会支部）	1716	968	56.4%	110	2432	4.52%
（内閣共済組合金融庁支部）	3175	1898	59.8%	161	4034	3.99%
（内閣共済組合こども家庭庁支部）	838	539	64.3%	37	969	3.82%
（内閣共済組合環境省支部）	9100	5584	61.4%	664	11666	5.69%
総務省共済組合	12989	8586	66.1%	1059	16906	6.26%
（総務省共済組合本省支部）	10911	7396	67.8%	926	14137	6.55%
法務省共済組合	159416	97789	61.3%	9241	206429	4.48%
（法務省共済組合法務本省支部）	2931	1753	59.8%	113	3405	3.32%
外務省共済組合	12876	5397	41.9%	383	10172	3.77%
財務省共済組合	153765	104602	68.0%	11185	200702	5.57%
（財務省共済組合財務省財務本省支部）	4224	2773	65.6%	302	5376	5.62%
文部科学省共済組合	375738	222619	59.2%	22031	468058	4.71%
（文部科学省共済組合文部科学省支部）	5041	2994	59.4%	275	6398	4.30%
厚生労働省第一共済組合	94892	66106	69.7%	8018	134045	5.98%
（厚生労働省共済組合厚生労働本省支部）	9428	7314	77.6%	989	11786	8.39%
厚生労働省第二共済組合	138502	86048	62.1%	6350	160484	3.96%
農林水産省共済組合	59970	36803	61.4%	4144	76011	5.45%
（農林水産省共済組合）	46921	28857	61.5%	3285	59466	5.52%
経済産業省共済組合	28932	17336	59.9%	1873	36398	5.15%
（経済産業省共済組合本部）	19842	11870	59.8%	1168	26169	4.46%
国土交通省共済組合	134763	82621	61.3%	7307	166436	4.39%
（国土交通省共済組合本省支部）	12459	7534	60.5%	614	14605	4.20%
防衛省共済組合	330014	211772	64.2%	11427	456874	2.50%
（防衛省共済組合本省支部）	22100	14383	65.1%	953	29947	3.29%
その他（会計検査院、衆議院等）	618530	393708	63.7%	33329	744245	4.48%
国共済全体	2152522	1353064	62.9%	118426	2717382	4.36%

マイナンバーカードの携行率

○ デジタル庁が、令和5年11月～12月に、20,000人に実施したWebアンケート調査によると、マイナンバーカードの携行率は、マイナンバーカード保有者の5割、調査対象者全体の4割との結果であった。

取得率・携行率の調査結果(%)

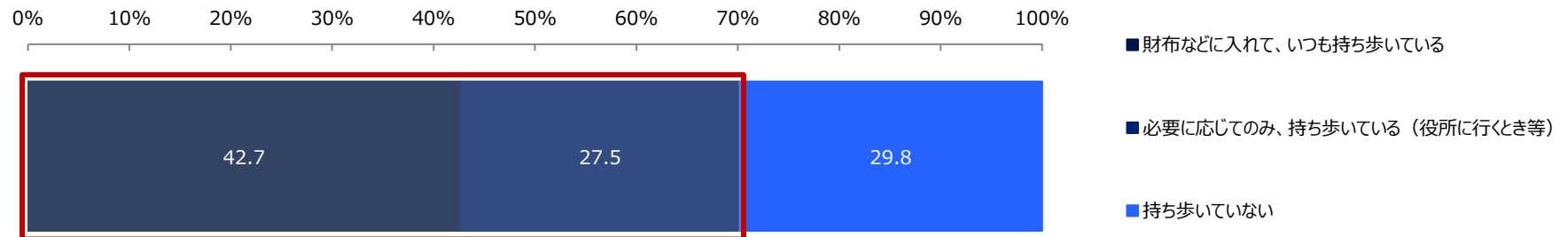


マイナンバーカード携行者は、全体の43.1%

保有者のうち50.2%

○ 厚生労働省が、令和6年2月に、18歳以上のマイナンバーカード保有者を対象に実施したWebアンケート調査によると、約4割が常に携行しているとの結果であった。

Q.あなたは、マイナンバーカードを持ち歩いていますか。あてはまるものを1つお答えください。



※デジタル庁調査と異なり、調査対象がマイナンバーカード保有者であることに留意が必要

マイナ保険証利用についての意識

○ 厚生労働省が、令和6年2月に、18歳以上のマイナンバーカード保有者を対象にWebアンケート調査を実施。

✓ 調査期間：2024年2月1日～2024年2月5日 ✓ 調査対象：18才以上の男女

✓ 調査手法：オンラインアンケート調査

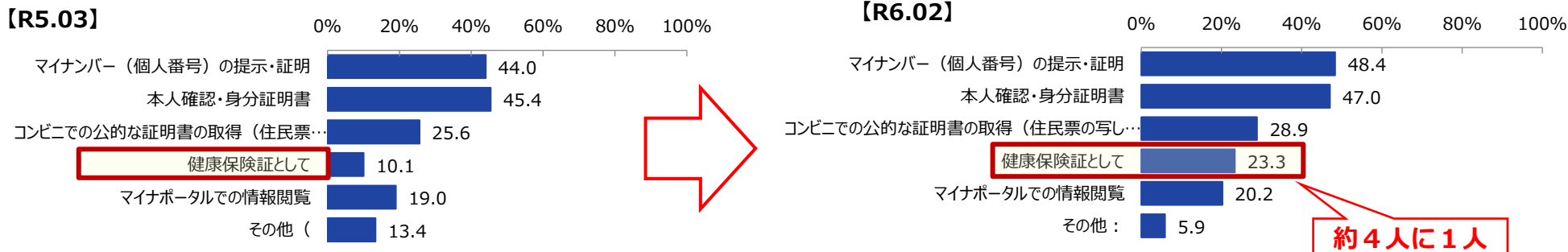
マイナンバーカード保有者

サンプル数3,000

業種排除（本人または家族が官公庁に就業または医療従事者）

◆ 約4人に1人がマイナンバーカードを健康保険証として利用したことがある。

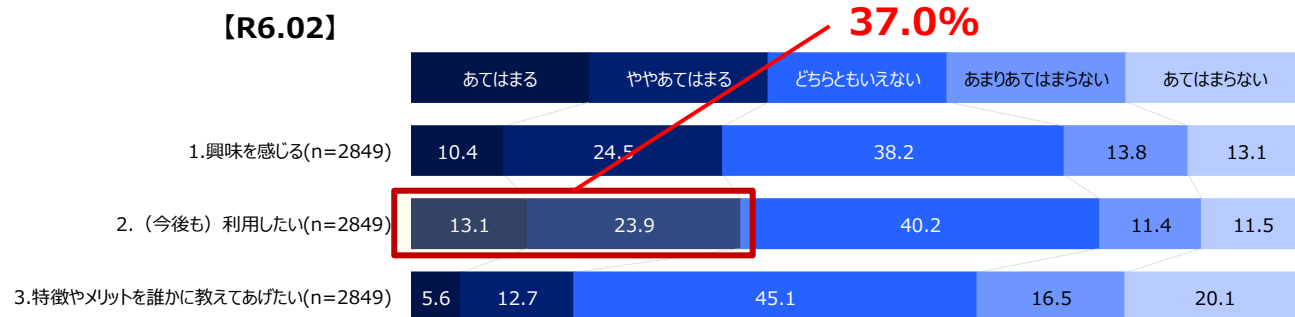
Q.あなたは、マイナンバーカードをどんな用途・目的で利用したことがありますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）



※日本経済新聞の調査（18歳以上、3000人に郵送、2023年10～11月に実施）でも、「マイナ保険証の利用経験あり」は24%となっている。

◆ 約4割弱がマイナ保険証を利用したいと考えている。

Q.あなたは、マイナ保険証について、どのような印象や考えをお持ちですか。それぞれについて、あなたのお気持ちに近いものを1つお答えください。



厚生労働省内における利用促進の取組み

厚生労働大臣によるビデオメッセージを通じた呼びかけ



※ この他、利用状況に関するアンケートを実施予定

幹部職員のメッセージ・ひとくちコラムを添えた全職員へのメールによる呼びかけ

【超便利！デジタル時代の象徴だね😊】と】

実家に帰ってきた長男、晩ご飯の団楽で：

「今日、病院行ったけどマイナンバーカードでスイスイだった」
「これ超便利！この調子でDXが進めば全てこれでOK、デジタル時代の象徴だね😊」

意図せずエッセイ・ネタ直撃の会話が目の前で交わされ、私はニヤニヤしながら、ふんふんと聞いていました。

長男は親元を離れて、普段からマイナンバーカードを各種手続きで多用、日頃から携行しています。最初はカード取得に消極的でしたが、マイナポイントを家族全員で取得、その後、利便性に気付きます。デジタル時代のパスポート感に触れれば、自然にマイナ保険証に行き着く。最初のひと押しと、その後の日常使用が鍵ですね。

令和6年3月 ●●局●● ●●●●

【ひとくちコラム】

より良い医療を受けることができます！

マイナ保険証で受診し、窓口の端末で「同意」を選択すると、過去に処方された薬剤の情報や特定健診等の結果が医療機関に提供され、適切な診断につながるほか、重複投薬等の回避が可能となります。高齢の方など、ご自身が服用している薬の名前などご存じない方も安心してより良い医療が受けられます。

なお、情報閲覧の同意は受診ごとに可能です。診療履歴や服薬情報を他の医療機関に知られることを望まない場合は、「同意しない」とすれば、閲覧されることはありません。

とっても簡単！
マイナ保険証
受診の際は毎回お持ちください

- 1 来院
マイナンバーカードをカードリーダーに置いてください
- 2 本人確認
顔認証または4桁の暗証番号を入力してください
- 3 同意の確認
診療・服薬・健診情報の利用について確認してください
- 4 受付完了
診察までお待ちください
カードを忘れずに！



【大臣メッセージ（全文）】

皆様、こんにちは。厚生労働大臣の武見敬三です。日頃より、それぞれの持ち場で、国民の皆さまのため、厚生労働行政が少しでも前に進むようご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて、ご承知のように、本年12月2日に健康保険証の新規発行が終了し、マイナ保険証を基本とする仕組みに移行します。マイナ保険証をめぐっては、登録情報との紐付けをめぐり、ご心配・ご迷惑をおかけしましたが、昨年末までにデータの総点検を行うとともに、今後、新たな誤りが生じないような作業手順を整えました。

保険証廃止の施行日も決定し、できるだけ多くの方々にマイナ保険証を利用いただくフェーズに入りました。各種調査によれば、国民の4割の方が常時、マイナンバーカードを携行しておられます。まずは、医療機関・薬局の窓口で来院された患者さんにマイナ保険証のご利用を呼びかけていただくことにより、利用が広がっていくと考えています。先月からは患者さんへの働きかけを進めていくための支援金制度がスタートしました。新年度の診療報酬改定では、マイナ保険証の利用実績を勘案した加算措置を創設し、医療現場でのマイナ保険証の利用促進の取組を進めてまいります。

加えて、保険者の取組も重要です。しかしながら、昨年11月時点で、厚生労働省職員が加入する第一共済組合のマイナ保険証利用率は、約5.98%にとどまっています。被用者保険トップの診療報酬支払基金健康保険組合が15%を超えていることと比較しても、低すぎると言わざるを得ません。

少子高齢化、そして人口減少が進む中、日本の医療の未来を切り開いていくためには、アナログからデジタルな世界へと組み替え、生活や社会の質を変革していく。すなわち医療DXを推進していくことが極めて重要です。

マイナ保険証は、医療がデジタルの世界に入っていくためのパスポートです。

マイナ保険証の利用を加速化するためには、まず、医療DXを推進する立場である厚生労働省において、率先垂範して、より多くの職員の方々にマイナ保険証をご利用いただき、ご自身の健康・医療データに基づくより良い医療を受けるという体験をしていただくことが重要です。私たちが、アナログの紙の保険証から、デジタルのマイナ保険証へと転換していく姿勢を示すことが、デジタル化に向けた国民の理解が広がっていくことに繋がるものと考えています。

マイナ保険証には、3つのメリットがあります。まず1つ目は、マイナ保険証を利用することで医療費を20円節約できます。自己負担も減ります。2つ目として、ご自身の過去の薬剤情報・医療情報を医師等に共有することで、データに基づくより良い医療が受けられます。さらに、現在、普及が始まった電子処方箋の利用も便利です。3つ目として、手続きなしで高額医療の限度額を超えた支払が免除されます。

マイナンバーカードの健康保険証としての利用登録がまだの方も、マイナンバーカードさえ持っていれば、医療機関・薬局のカードリーダーで簡単に保険証の利用登録ができます。厚生労働省の職員の皆様におかれましては、ぜひ、医療機関・薬局を受診する際には、必ずマイナンバーカードをご持参ください。また、皆様のご家族、ご友人にも、マイナ保険証の利用をお勧めいただきたいと思います。

そして、管理職の皆様、ぜひ、スタッフの皆様に対して、定例の会議や打合せ、あるいは日々、送られる朝メールなどにおいて、こうしたマイナ保険証の意義・メリットについてご案内いただき、積極的にマイナ保険証の利用を呼びかけていただければ幸いです。

諸外国と比べて、立ち後れていると言われる、我が国の医療DXを一步でも前に進めるため、今が正念場です。厚生労働省職員のお一人お一人のご理解とご協力をお願い申し上げます。